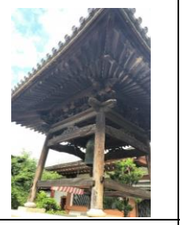
令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
1	『私の営むお店』 蛸地蔵商店街、駅を降りてすぐの所。私の小さい頃は北町グランドから南町まで、八百屋さん　食料品店は30軒以上あったそうです。今では大型量販店に押されて、営業しているお店は数店舗。地域に住むご高齢のお客様のお話を聞きながら楽しく営業しています。岸和田祭りにはたくさんのお客様が来店します。地元出身の方が来られます。水茄子買いに来ました。学生の頃は蛸地蔵駅で通学していました。見たことの有る顔が商店街を歩いています。中には、保育園のお泊まり保育、この店にカレー材料を買いに来ました。とか。長年　商売をしていると、お客様の入園、入学、卒業式、結婚や出産　いろんなシーンを見ます。小さかったあの子が！そんな小さな事が毎日の励みになります。あと何年続けられるかわかりませんが、頑張って行きたいと思っています。（57歳男性）	
2	『久米田寺、鐘楼』 普段は参拝客も少ないが、大晦日には、除夜のかねをつくために、沢山の人が集まります。（55歳男性）	
3	『岸和田だんじり祭り』 去年の岸和田だんじり祭りで岸和田城をバックにして撮りました。心に残る伝統はやっぱり岸和田だんじり祭りです。（31歳男性）	
4	『岸和田城二の丸広場をまもる方々』 祖父と訪れた幼少の頃、いつも駄菓子を買い、二の丸広場の猿舎を観ながらおやつを楽しんだ思い出がここへ来るたび、こころに浮かびます。今は猿舎も無くなりましたが、昔からある松の大木に加え、大きなベンチや桜、梅の木が出迎えてくれます。遠足で訪れ、弁当を広げる幼稚園児たちの姿やベンチで本を読んでいるひとなど憩いの空間となっています。それを日々支えてくださっている方々の姿も忘れてはならないと思い、感謝の気持ちを込めて応募させていただきました。（50代男性）	
5	『二の丸広場』 岸和田城の前にある二の丸広場は、芝生と遊歩道があり松林が広がっている。昔は、二の丸公園と呼ばれ、私が小学生の時に遠足で来たころは、檻があり、そこには2,3頭のサルが居た、みんなでお弁当を広げ、みかんやお菓子をあげたことをうっすらと記憶している。今は、その檻も撤去され二の丸広場として整備されており、だれもが休憩や散策のできる市民の憩いの場として地域に親しまれている。（48歳男性）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
6	『牛の口公園のスタンドから』 岸和田駅から大阪側に牛の口公園野球場があります。そこに設置されている観覧席からは、公園の遊具で遊んでいる人や、散歩する人、野球場内で野球やサッカーをする人などの他に高架を下ってくる電車を見ることができます。また、時間帯によっては、ラピートが交差するシーンも見ることができます。牛の口公園は多くの人がスポーツなどを楽しむことが出来るところです。（48歳男性）	
7	『南海線沿いにある、お風呂屋さん』 毎晩、食後に１時間程度の散歩に出かけます。そのコースに南海電車が目の前を通過する銭湯があります。今では、市内でもあまり見かけなくなりました銭湯ですが、営業されていました。いつまでも、地域の皆さんの憩いの場でありますように。（48歳男性）	
8	『阪南港灯台』 木材町の堤防の向こうには、大阪湾が広がっています。この場所は、週末にもなると家族や友達同士などいろいろな人々が魚釣りに集まってきます。遠くには、岸和田市貝塚市クリーンセンターも伺えることもでき、人々が楽しむことのできるところです。（48歳男性）	
9	『神於山土地改良区』 私の父親は、神於山土地改良区の一角を借地し、菊などの花や季節の野菜を栽培しています。そして、いつも収穫したものを配達してもらい、いつもおいしくいただいております。この地区の中には、たくさんの農家さんが花や野菜をつくり、多くの人に恩恵を与えていることだと思います。また、例年10月から11月にかけて、休耕地になっている土地を利用してコスモスが植えられ、青い空とピンクの花がきれいなコントラストとなり、道行く人の目を楽しませてくれます。（48歳男性）	
10	『錨のオブジェ』 カンカン（ベイサイドモール）の海側を少し大阪側に行ったところに、ひときわ大きな錨があります。その付近には、高速（臨海線）がはしっており、その下ではゲートボールや、バーベキューなどを楽しむ人たちで賑わう場所になっています。（48歳男性）	
11	『兵主神社の夜店』 兵主神社は、西之内町の中央公園の浜側にある神社です。例年、７のつく日に夜店が行なわれており、今年もコロナに負けず開催されていました。夜店といえば、金魚すくいや、くじびき、かき氷などたくさんありますが、わが家には、子供が小さいころに夜店でもらってきた金魚が、15ｃｍほどまで大きくなりました。（48歳男性）	

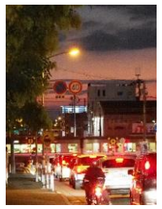
令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
12	『蛸地蔵手づくり市』 写真は平成29年の天性寺地蔵盆のときのものです。私が大学生のころにはもうすでに行われていた蛸地蔵手づくり市。地元の人が地域を盛り上げようと頑張り、それが何年も続いているのはとてもすごいと思います。コロナ禍でたくさんのイベントが中止となっていますが、またみんなでこのイベントを楽しめる日が早く来てほしいと考える日々です。（29歳女性）	
13	『久米田池の夏祭り』 久米田池は近所なので、よく行きます。友達や家族とウォーキングしたり、正月には初詣、春はお花見、夏の新緑、秋の行基まいり、冬の水が抜かれている景色など、いろんな季節での思い出があります。2018年の台風で桜の木が少なくなり、通るのが嫌になるくらい寂しい景観になりました。でも地域の人はみんな久米田池が好きなので、夏祭りなどで盛り上げています。今の世の中イベントはなかなかできないですが、また久米田池にウォーキングしに行きたいと思います。（29歳女性）	
14	『岸城神社の十日戎』 岸城神社には十日戎や初詣で行った思い出があります。社会人になってからも会社帰りに十日戎へ訪れて、わいわいおみくじをしたり屋台でどれを食べようか悩んだ思い出があります。また、岸高生を見ると高校時代を思い出し懐かしくなります。（29歳女性）	
15	『古来のひとの営み　摩湯山古墳』 小学生の頃、昔から近所にあった摩湯山古墳がお墓だと知った時はとてもびっくりしました。4世紀ごろにはこの辺りはどういう場所で、どんな人たちがどんなことを考えて生きていたのだろうかとか、どんな人がこの古墳の中で眠っているのだろうかとか、摩湯山古墳を見るといつも考えます。昔の人の営みが作り出したこの景観が今でも残っていることを考えると不思議な気持ちになり、これからも残ってほしい景観だと思います。（29歳女性）	
16	『春の訪れを告げる「いかなご」漁 』 ２月末ごろから、大阪府鰮巾着網漁業協同組合がある地蔵浜で水揚げされる「いかなご」。早朝に出港した漁船が帰ってくると港は漁業関係者の活気で溢れます。いかなごを使った「くぎ煮」は、若い頃は食べようと思わなかったけど、年齢を重ねると、春の訪れを感じさせてくれると同時に、祖母や母親の手作りの思い出、漁師さんの仕事風景を蘇らせてくれる1品に変わりました。 （45歳男性）	
17	『東葛城小学校・幼稚園（東葛ふれあいファーム）の田植え風景 』 東葛城小学校・幼稚園では、地域のＪＡさんと共同し、東葛ふれあいファームでの農業体験が行われている。東葛ふれあいファームでは稲や玉ねぎ、サツマイモなどの作物を育てている。子どもたちはふれあい委員さんやＪＡの職員の方から、植え付けや収穫について教えてもらう。収穫された作物は、給食としていただいたり、学校に関係のある施設にもっていったりし、活用されている。東葛城小学校・幼稚園では、地域のＪＡさんと共同し、東葛ふれあいファームでの農業体験が行われている。東葛ふれあいファームでは稲や玉ねぎ、サツマイモなどの作物を育てている。 （18に続く）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
18	（17の続き）子どもたちはふれあい委員さんやＪＡの職員の方から、植え付けや収穫について教えてもらう。収穫された作物は、給食としていただいたり、学校に関係のある施設にもっていったりし、活用されている。児童にとって農作業を体験することや食について考えることは、食育の一環となっている。東葛ふれあいファームは学校・園と地域をつなぐ場となっている。6月の田植え体験の様子である。現代の子どもにとって田んぼの中に入り、苗を植え付ける機会は多くない。子どもたちにとって、足から伝わる感触はとても新鮮な様子である。子どもたちの賑やかな声が地域にひろがる。学校と地域の結びつきを感じる風景である。（62歳男性）	
19	『生活する上での必要不可欠の風景（場所）』 ひと昔と違い、今日では老若男女を問わず手軽に楽しく買い物が出来る様になりました。（77歳男性）	
20	『高齢者の健康志向（ウォーキング）』 人生100年時代と言われる昨今、毎日の積み重ねが第一と思います。（77歳男性）	
21	『半世紀前には考えられない？風景！人達』 スーパーや役所・病院等で各施設よりも場所によっては広大な敷地をしめている駐車場で働く人々。（77歳男性）	
22	『農業まつり』 毎年開催されていた農業まつり。農産物の販売やステージでの催しなどたくさんの人々が集まり、賑やかなひとの営みを感じられる景観です。今年は残念ながらコロナウィルスによる影響で中止となりましたが、またこのような紅葉の下、多くの人々が集まれる日々が早く戻ってくることを願っています。（32歳男性）	
23	『家族で水遊び』 夏の暑い日に公園で水遊びをしたときに撮りました。お昼の久米田公園も最高ですが、夕日が出てくる夕方がお勧めです。自然を身近に感じることが出来ます。（16歳女性）	

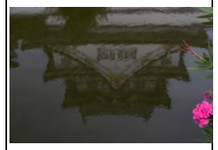
令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
24	『私の大好きな風景』 岸和田に引っ越して、1番魅力的に感じた場所です。電車が通り、電車を待つ人・車…全てが綺麗に写るのです。特に夕方の少し暗くなってきた頃が1番綺麗だと思います。疲れたときは学校の帰り道、遠回りしてこの風景に元気をもらいます笑　この場所は素晴らしいですが、ひとの営みがあってこそ、もっと素晴らしい、人の心を惹きつけるような場所が出来たのだと思います。（16歳女性）	
25	『コロナだんじり祈願』 今年はコロナのため、だんじり祭がとりやめになりました。大変残念なことであります。長い歴史と伝統の中で、コロナ対策祈願を行うことにより、来年こそは地域の賑いをとりもどしてほしい。（70歳男性）	
26	『ミカン小屋が創る山里の景観（阿間河滝町）』 美しい木割と梯子のミカン小屋が創る風景は泉州山里の営み景観（72歳男性）	
27	『産業遺産と祭の詰所（大手町）』 浜の名所煮干蔵前に陣取る相談役詰所、歴史の営みを感じさせる景観（72歳男性）	
28	『真夏の石垣掃除（岸城町）』 岸和田城の複雑な石垣を舞台に展開される夏恒例の草刈り風景（72歳男性）	
29	『人垣とだんじり（北町）』 前後左右皆人垣、町の誇りみせちゃろか！（72歳男性）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
30	『頼もしい応援団（本町）』 いつまでも見守り隊！追っかけ隊！娘と母のド根性風景（72歳男性）	
31	『古代の人々の営みを思い私たちは確かめる』 2018年5月和歌山大学岸和田サテライトと岸和田市図書館との共同企画の「久米田を編集する」という地域の情報をオープンデータとして公開し、地域活性化につなげていくイベントが久米田寺付近で行われた。久米田寺付近は古代から人々の営みが行われ多数の古墳がある。久米田寺のすぐ隣の風吹山古墳の上から市内を見渡すと今の私たちの営みが広がっていた。人の営みをつないでいる景観を実感した瞬間だった。（76歳男性）	
32	『岸和田ボランティアガイドの研修風景』 コロナ禍でひっそりとしたお城の庭で、次のガイドを育てるための研修中です。訪れた方々に、岸和田の歴史や文化を熱く語り、楽しんでいただきたいと頑張っています！（65歳女性）	
33	『地蔵浜のいわし巾着組合 荷捌き場』 大阪府下のすべてのバッチ漁船が、岸和田市地蔵浜の鰮（いわし）巾着網漁協の荷捌き場で獲ったシラスやイカナゴを卸します。いっせいに船が寄港し、シラスを積んだかごを上げていく様子です。後ろには水揚げの順を待つたくさんの漁船がたたずむその景観に、岸和田の浜の賑わいを肌で感じます。（43歳女性）	
34	『岸和田名物のマイワシの出荷』 漁師が主人公の演歌、鳥羽一郎「泉州春木港」で歌われた春木漁港で、遅い梅雨が明けた頃マイワシの出荷作業が行われていました。岸和田で水揚げされる大羽イワシは金太郎イワシとも呼ばれ、全国的にも有名なブランド魚となっています。たくさん水揚げされたマイワシが手早く箱詰めされる様子は、活気があふれていました。（43歳女性）	
35	『若い世代へと受け継がれていく漁』 岸和田市の沖合にて、巾着網漁で獲れた魚をフィッシュポンプで運搬船に移し替える作業のようすです。若い漁師さんたちも日々厳しい自然と向き合いながら頑張っています。運搬船に移されたイワシやアジなどの魚は、素早く岸和田の港に運ばれます。漁場が港から近いこと、そして関西国際空港や阪神高速インターが近くアクセスが便利なことから、岸和田の巾着網漁で獲れた魚は新鮮なうちに日本各地へと出荷されています。（43歳女性）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
36	『お堀のいろどり』 岸和田城は私にとって50年来のシンボルであり心のよりどころです。四季を通じてさまざまな姿を見せてくれ、いつ見ても癒されます。（71歳男性）	
37	『久米田池』 写真は、久米田池で、手前の「満水標」の頭が約50センチ見えています。これらの水が、久米田池下流に広がる田を潤し、米を育てた証です。（60歳男性）	
38	『世代を超えて』 勇壮なだんじりを追いかけて。いつの日か、子供と手をつないでだんじりを追いかける。世代を超えて、人々の営みが垣間見える。こころに残る景観です。（47歳女性）	
39	『時代の移ろいとともに』 江戸時代には岸和田城二の丸へと続くこの場所は、郡役場から現市役所庁舎へと時代の移ろいとともに変化しました。令和の時代になって新しい市役所庁舎がどんな時代へとバトンタッチしていくのか今から楽しみです。（53歳男性）	
40	『一年の終わりと始まり』 岸和田のカレンダーは９月始まり。そんな街の風景を表すように軒先に提灯が並ぶ。この 灯（ともしび） を見かけると一年の節目を感じます 。（53歳男性）	
41	『昔も今も時を刻む商店街』 小学生当時の頃は、子どもながらに、まるで心斎橋のように人が溢れ、活気があったように思います。繁華街を求め、「岸和田に行こか」と映画に、ニチイに、ムサシヤに、そしておもちゃ屋にと訪れ、わくわくしました。　今では、お店も人通りも当時よりは減っていますが、祭りやどんチャカフェスタの時は、その活気が当時のように戻り、懐かしく、タイムスリップしたかのように当時を思い出します。（42に続く）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
42	（41の続き）お店は変わりつつありますが、今なお、当時のおもちゃ屋さん、八百屋さん、お餅屋さんなどもあり、建物も・通りも・人も、岸和田の息遣い（「誰もが」の営みそのもの）が感じられ、間違いなく岸和田を代表する商店街通り（岸和田駅前通商店街と闇市商店街（城見橋筋商店街））です。全国でも少なくなってきたアーケード商店街、風情があります。皆さんも、ぜひ訪れ、肌で感じとって下さい。活気ある風景と岸和田の人情がいつまでも続きますように。コロナに負けるな！（52歳男性）	
43	『坂をのぼって、ちょっと一息』 中島池公園から土生中学校方面に向かって長い坂を登った先にある、小さな公園です。孟正寺池を背景に、綺麗に手入れされた季節の花々(地域の方々によるものとお聞きしました)が美しく咲き、とても気持ちの良い景色です。子どもたちとの散歩の休憩場所としてよく利用させていただいています。（奥の方に草が生えている場所は手入れが難しそうです、市のほうで整備いただけるとより美しい景観になるかと思います…）（40歳女性）	
44	『みかん畑と牛神の森』 稲葉町の和泉市寄りの丘に牛神さんが祀られています。みかん山の頂上付近の鎮守の森の奥に在り、細々ですが少人数で守っています。この丘からの眺望は大変気持ちがよく、新しく出来た岸の丘町の発展の様子も奥に見ることができます。小さい頃遊んだ森がなくなるのは寂しいものがありますが、この地域が賑わう未来が楽しみでもあります。（54歳女性）	
45	『岸和田観音　節分』 いにしえから災害や疫病から身を守るために祈ってきた人々。お参りに来ているたくさんの人の姿に時代が変わっても人々の気持ちは大きく変わらないのだな、と気づかされる。古い時代にも、きっと同じような景色があったはずというノスタルジーな気分になれるひとこま。（44歳女性）	
46	『久米田寺千本搗き』 新しい年の始まりの風物詩とも言える久米田寺の千本づき。たくさんの細い杵でお餅を搗く様子は家庭とは違った趣きがあり、地域の人たちの中で受け継がれてきた営みとしてテーマにぴったりだと思いました。（44歳女性）	
47	『みんなのために』 私は小さい頃に一度、岸和田城にある八陣の庭の青海波を体験させてもらったことがあります。それが今でも印象に残っていて、私にとっての岸和田のひとの営みだと思いました。時々岸和田城に行きますが、いつもきれいな青海波を見ることができるのは、この方々が私たちや観光客のためにやってくれているからだと、写真を撮りながら思いました。この写真を撮りに行ったときに体験させてもらいましたが、とても大変だったので、改めてすごいなと感じました。（16歳女性）	

令和２年度「こころに残るひとの営み景観」応募作品一覧

番号	エピソード	写真
48	『たくさん釣りたい』 この日は僕も釣りに来ていて、1匹も釣ることができなかったです。帰り際に撮りました。後ろの船にはたくさんの魚が乗っているんだろうなぁと羨ましく思い、僕もたくさん釣りたかったなぁと思いました。そして、手前の釣人たちにはたくさん魚が釣れるようにと心の中で願って帰りました。（15歳男性）	
49	『１日の出発点と終着点』 学校が終わって帰ろうと駅に向かっていると踏切の音が鳴り始めて、走りましたがバーは降りてしまいました。落胆する私の前を電車が通りました。その時に撮った写真です。この写真は朝にも夕にも思え、光る先へ行く電車の中の様々な人の生活や思いが自然と見えてくると思います。電車に乗る人も乗らない人もこの写真をきっと身近に感じます。（16歳女性）	